

安心・安全な水を未来につなげて届けるために

水道は皆さんの生活を支える「飲み水」であるとともに、ライフラインとしても欠かせないものです。その水道が「人口減少」や「施設の老朽化」により、大きな岐路に直面しています。

問い合わせ 水道課 永野 ☎0081

市の給水区域

市内の上水道は、①牧之原市上水道②吉田町上水道③大井上水道④菊川市上水道⑤御前崎市上水道の5事業団体によって給水されています。このうち、牧之原市上水道では、大井川流域7市（本市、菊川市、御前崎市、掛川市、島田市、藤枝市、焼津市）に供給される「大井川流域水道」と、榛南2市（本市、御前崎市）に供給される「榛南水道」から取水をしています。

水道施設の統合

「榛南水道」は昭和44年に事業を開始し、本市と御前崎市に用水を供給

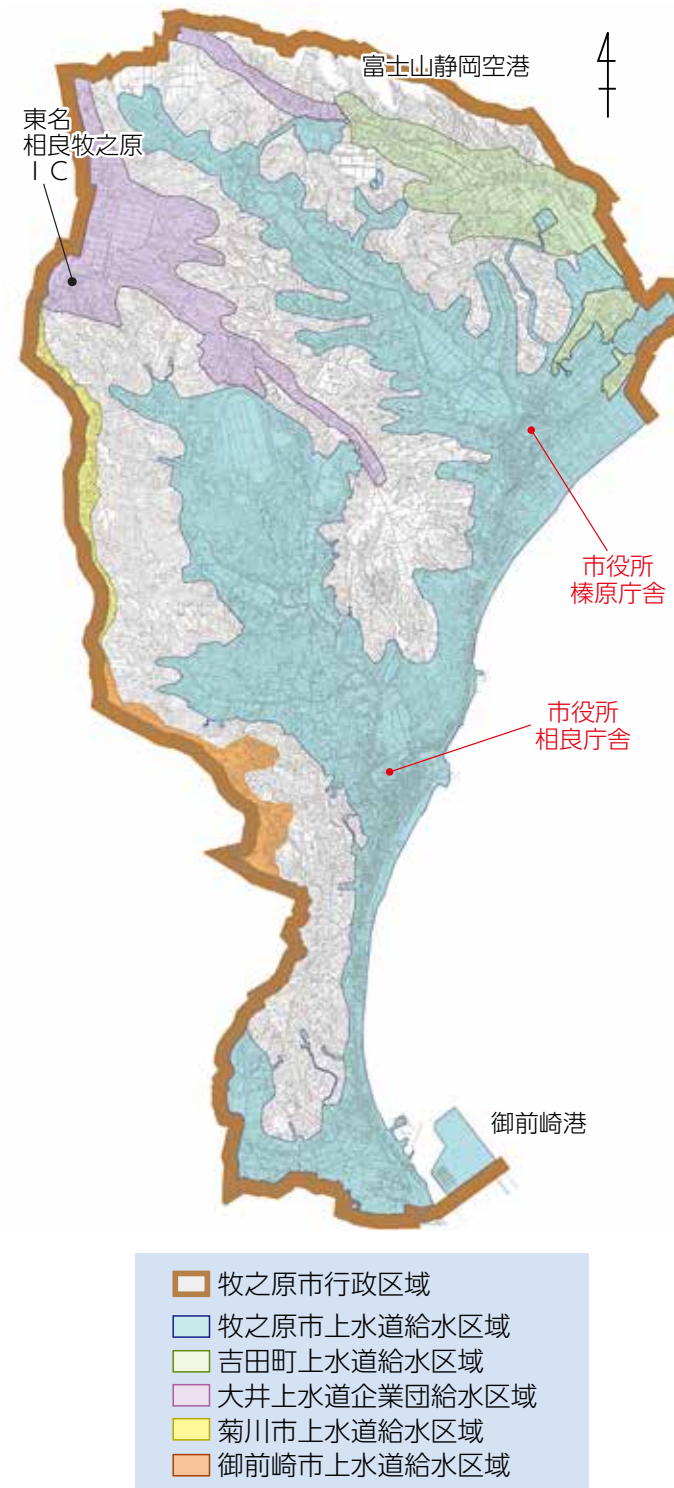
水道事業の経営状況と今後の見通し

水道事業の経営には、施設の建設費や維持修繕費のほか、人件費や水の購入費（受水費）などさまざまな費用が必要となります。また、大規模災害において、市民の生活を守り安定した水を供給するために、配水

池や配水管などの施設を災害に強い施設に更新していくことも急務となっています。しかし、人口減少や節水機器の普及、ライフスタイルの変化により水需要の減少とともに、水道料金収入も年々減少が続いており、令和4年度から支出が収入を上回っています。（9ページグラフ）

現在、積立金を取り崩して経営していますが、今後も施設の老朽化・耐震化に伴う建設事業費の増加や物価の高騰などによる社会情勢の変化が予想されます。経営はさらに厳しさを増していくと考えられ、財源の確保は避けて通れない課題です。

市内給水区域図



安心・安全な水を供給するために

市では、会計システムの共同発注や、これまで人力で行っていた漏水調査をAI（人工知能）を活用して行うなど、効率的かつ合理的な事業を展開し、極力経費の削減に努めています。しかし限界があり、将来にわたり安定した水道事業を運営することが困難となる懸念があります。

将来にわたり安心・安全な水を供給するために、水道事業経営の根本的な改革を検討しなければなりません。さらに水道料金の見直しを視野に入れた審議会を近日中に開催し、継続的に審議していく予定です。

「牧之原市水道事業経営戦略」を見直しました

人口や水需要の減少に加え、労務費の上昇、資機材などの物価高騰により、水道事業を取り巻く環境に変化が見られたため、平成30年に策定した「牧之原市水道事業経営戦略」を令和7年2月に見直しました。

これは、経営の基本方針を「幸せあふれるまちを支え続ける水道」とし、今後も水道事業が安定的に継続できるように更新したもので、期間は令和7年度から令和16年度までです。

分析の結果、令和6年度に34853人（決算値）であった給水人口は、令和16年度には約3万900人となり約4千人減少する見通しです。それに伴い、有収水量（*）も減少が進み、令和6年度の439万4千m³（決算値）から令和16年度には約407万m³となり、約32万m³減少となる見通しです。

また、給水収益も減少が続き、令和16年度には約1億円ほど支出が収入を上回る見通しです。（下記グラフ）経営戦略では、令和9年度以降、料金改定が必要と見込んでいます。審議会では、経営改善に取り組みながら適正な料金単価を審議していく予定です。

*有収水量：料金徴収の対象となった水の量

【グラフ】収入・支出と給水人口の推移（現行料金推定） [出典] 牧之原市水道事業経営戦略

